

ワン テン 1 10 千人会

あなたの足跡を母校に残しませんか！
同窓生一人一人の団結が力です！
あなたの善意を母校に刻みましょう！
母校の発展はあなたの発展！

熊薬研究助成支援の会

「1 10千人会」について

熊薬研究助成会 運営委員会
委員長 田代 昭



同窓生の皆さん、最近我が母校熊本大学薬学部を訪れたことがありますか？

母校熊薬は、樹齢百年をゆうに越える楠や銀杏などの大木が若かりし学生時代の風情を今も残し、ここ数年の研究施設の新設および大型改修工事の竣工により、日本一美しい学園に生まれ変わりました。こうして21世紀に向けて大きく発展していくため、更なる研究設備の充実・研究環境の整備が計られてい

ますが、慢性的な研究費の不足が母校発展のブレーキになっているそうです。このような状況に接し、私ども同窓生が母校発展のため少しでもお役にたてようと、熊薬研究助成支援の会「1 - 10千人会」(ワン テン センニンカイと呼びます)を設立いたしました。

その主旨にご賛同いただき、是非とも同窓生の皆さんの多くにご入会いただきたくお願い申し上げます。

詳細につきましては、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

熊薬同窓会からのお願い

今回、1 10千人会の完納者の皆様にも、失礼ながら振込用紙を同封させて頂きました。勝手に恐縮ながら、再度の温かいお志を祈念申し上げます。

本会報の発行を含め熊薬同窓会の活動にかかる費用は、会員の皆様方の会費および寄付金よりまかなわれております。諸経費の値上がりや会員数の増大(本会報は会員全員に郵送されております)に伴い、予算が余裕のないものになりつつあります。現在、会費納入率は全会員数の約4割です。何卒、年2,000円の会費の納入による御協力をお願いいたします。また、本会報には今年度の会費用と1 10千人会用の2種類の振込用紙が同封されております。振込口座が異なりますので、お間違いのないようお願いいたします。なお、行き違いにご送金された方は何卒ご容赦下さい。

本会報は会員名簿記載の住所に郵送されております。お手もとに送られてこない方を御存知でしたら、同窓会事務局への住所変更の連絡を勧めていただくと幸いです。

編集後記

熊薬同窓会のインターネットホームページのゲストブックには、同窓生の方々からのご意見が寄せられています。そこからは、(一部の?)若い同窓生の方々の、熊薬同窓会の活動への不満・不信感がうかがえます。若い同窓生へ向けた支援体制作りや会報の紙面作りなどが叫ばれています。また一方では、若い同窓生が中心となって新たに長崎南支部が結成されるという動きがありました。そこでは熊薬や薬局の現状、薬学の情報などを、気楽に意見交換できるような支部作りをされていくようです。ここであらためて会則を顧みると、第2条に、「本会は、会員相互の親睦を図り、会員と母校との連携を密にして、母校並びに薬学の発展に資する。」とあります。つまり、自らが、何がメリットか、何が利益か?を考え、声をかけ、ネットワークを広げていくという能動性・積極性こそ熊薬同窓会の理念と合致するような気がいたします。同窓生のみなさん、もっともっと意識して連携を密にしていこうではありませんか! 最後になりますが、熊薬同窓会会報第36号の発行にあたり、ご執筆の労をとっていただきました方々に心より感謝申し上げますと共に、会員の皆様方の益々のご発展とご健康を心よりお祈り申し上げます。

(Y.I.)

連絡先



熊薬同窓会のホームページアドレスが変わりました。これまで同様、熊薬ホームページ共々、どうぞ御覧下さい。

〒862 0973 熊本市大江本町5 1
熊本大学薬学部内
熊本大学薬学部同窓会事務局
TEL & FAX 096 371 4766(直通)

《熊薬同窓会ホームページ》

<http://dousou.pharm.kumamoto-u.ac.jp>

《E mail》 kumayaku@www.pharm.kumamoto-u.ac.jp

《熊薬ホームページ》 <http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/>

熊薬同窓会々報

第 36 号

平成 13 年 6 月 30 日
発行

21世紀の熊薬：さらなる発展・充実を求めて

同窓会会長・薬学部長
上釜 兼人



21世紀を迎えて、社会・経済・文化などあらゆる分野でグローバル化や電脳化が進展し、改革の嵐が吹き荒れる中で、大学は大きな転換期に立っています。このような時代こそ、競争と協調、そして柔軟性ある対応が望まれ、魅力ある文化や新しい科学を創出する人材を養成する必要があります。今、社会が大学に求めているのは、学部教育に関しては、将来に向けて基礎学力を充実し豊かな教養を身につけて欲しいという要請であり、大学院教育に関しては、即戦力となり得る研究者や高度専門職業人の養成が求められ、教育改革

が我が国の運命を決する重要な課題となっています。そして、国立大学は設立以来最大の転換期を迎え、独立行政法人化の問題など、大学の在り方が厳しく問われています。熊薬では、このような激動・激変の時代に、次世代を担う創薬研究者や医療人の育成を目指して様々な課題に取り組んでいます。そこで、この機会に薬学部並びに同窓会の近況をご報告いたします。

平成12年度は、熊大薬学部にとりましても激動の1年でしたが、最大の収穫は、平成13年4月から大学院薬学研究科に全国に先駆けて「ゲノム創薬」を標榜する分子機能薬学専攻が設置されたことでもあります。本専攻の立案から実現に至るまで、教官と事務官が一体となって申請作業に当たり、学長、医学部長、動物資源開発研究センター長はじめ多数の皆様のおかげで支援とご助力を賜りました。国家予算が厳しい中で、文部科学省高等教育局医学教育課との数度にわたる折衝をクリアできましたのは、これまで蓄積された熊薬の輝かしい教育研究実績に加えて、熊大が誇る卓越した研究拠点の一つである動物資源開発研究センターが協力講座として参画され、連携講座として学外から化血研に加わって頂いたこと、さらに、

先導的な教育研究構想を実現する強力な教官スタッフに恵まれたことなど、いくつもの幸運が重なりました。本専攻の源流は杉井、古川学部長時代に立案された「分子機能操作薬学専攻」に遡ります。以来苦節10年、装いに新たに「分子機能薬学専攻（独立専攻）」が実現しました。その間、時代の要請により「臨床薬学専攻（独立専攻）」が国枝学部長のご尽力で4年前に設置されましたので、これで、学部を基礎とする「薬科学専攻」を中核にして、2つの独立専攻が特化・展開する形で、念願の3専攻体制が整備され、熊薬に新しい歴史を刻むことになりました。

ところで、20世紀後半における人類史上最大の発見の一つはDNAであり、アポロ11号の月面着陸を凌ぐ快挙であると言われ、我々薬学領域にも大きな夢を与えてきました。このDNA発見を契機に生命科学や遺伝学が驚異的に発展し、ヒトの遺伝子（ゲノム）の全塩基配列の解読によって、病気の原因となる遺伝子が特定されるなど、生命の神秘が解き明かされようとしています。そのような状況下、薬学に対して、ゲノム解析により得られた情報を創薬や医療に応用する研究及びこれに対応する人材育成が求められています。患者のゲノム情報をもとに疾患関連遺伝子や薬剤感受性遺伝子を同定し、これらの遺伝子が作り出すタンパク質に直接働きかける治療薬や予防薬を開発するために、最新の科学技術（蛋白質構造解析、バイオインフォマティクス、コンピューター支援ドラッグデザイン、コンビナトリアルケミストリーなど）を駆使して新薬を創製するのが「ゲノム創薬」であります。この新時代の創薬は、患者固有の遺伝情報に合わせて、がん、糖尿病、エイズ、老人性痴呆などの生活習慣病や現代病に有効な、いわゆるオーダーメイド医薬品の開発に大きく貢献するものと期待されています。

熊薬の分子機能薬学専攻は、この「ゲノム創薬」への目的指向性の高い教育研究体制を敷き、先導的創薬を担う有為な人材の養成を目指します。新専攻を構成する講座名と主任教授を紹介すると、基幹講座として遺伝子機能応用学講座（甲斐広文教授）、創薬基盤分子設計学講座（原野一誠教授）、生体機能分子合成学講座（大塚雅巳教授）、機能分子構造解析学講座（山縣ゆり子教授：阪大薬より）、協力講座として細胞機能分子解析学講座

目次

21世紀の熊薬：さらなる発展・充実を求めて	1
新任教官紹介（分子機能薬学専攻）	2
支部だより	4
長崎南支部	
関東支部・東京バッテン会	
福岡支部・蘇陵会	
北九州支部・玄楠会	
卒業生だより	7
熊薬、昔は今（15）	8
熊薬研究助成金受領者研究報告書	9
平成12年度卒業（修了）者就職（進学）先一覧	11
博士号取得者	12
慶事	12
「薬剤師のための医療薬科学研修」のお知らせ	12

熊薬同窓会総会のご案内 薬学展開催のお知らせ	13
庶務報告	13
学内だより・掲示板	13
訃報	13
寄付者一覧	14
1-10千人会入会者一覧	14
1-10千人会寄付者芳名録	16
会則	17
同窓会役員	18
白木技官・北岡技官退官記念	19
熊薬同窓会事務局よりのお知らせ	19
熊薬研究助成支援の会について	20
連絡先	20
編集後記	20